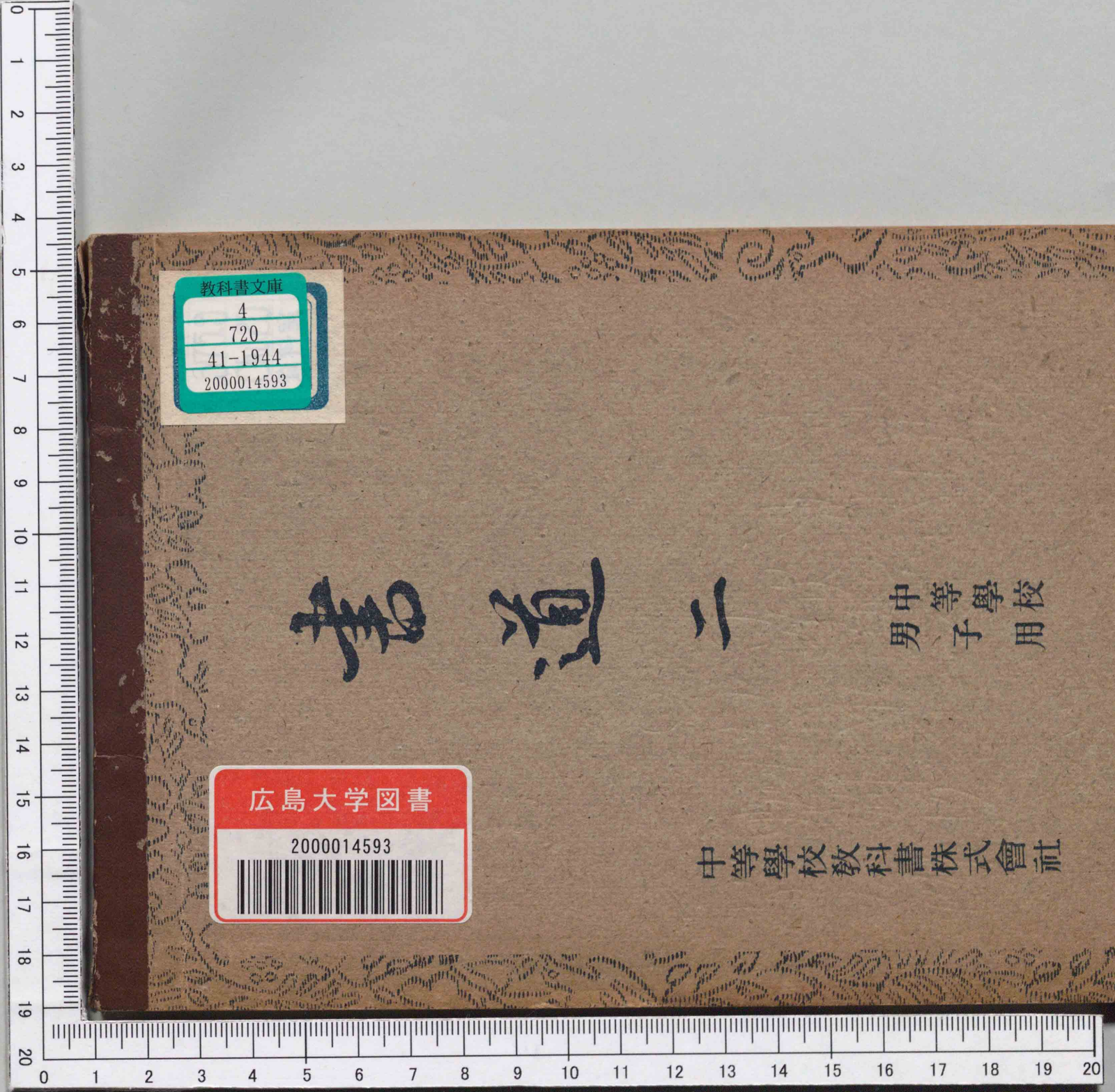
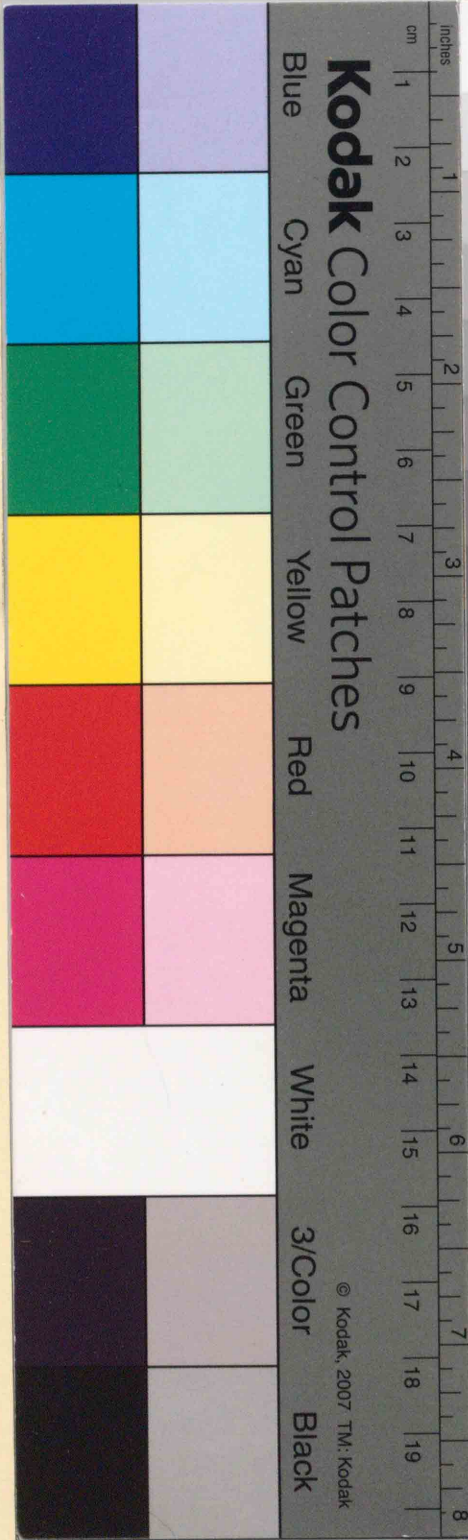
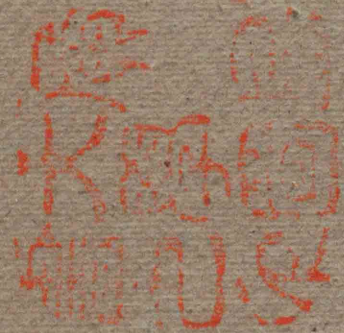


41151

教科書文庫

4
720
41-1944
20000 14593





資料室
375.9
Chu20

文部省檢定済
昭和十九年二月三日 中學校・實業學校藝能科用

教科書文庫
4
720
41-1944
2000014593

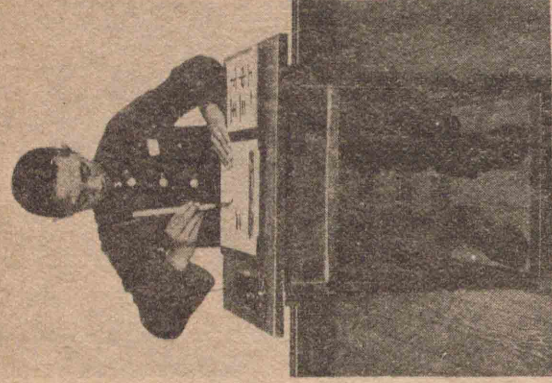
書道二



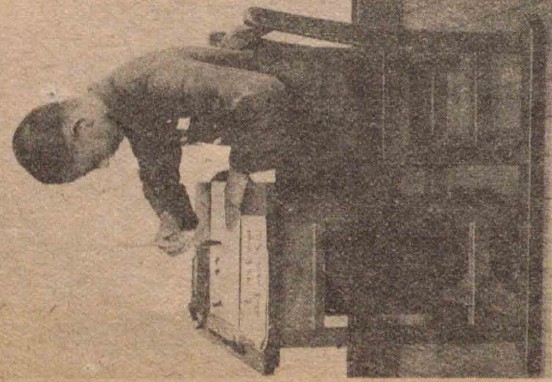
中等學校
男子用

広島大学図書
2000014593


腰掛けた姿勢(正面)



腰掛けた姿勢(側面)



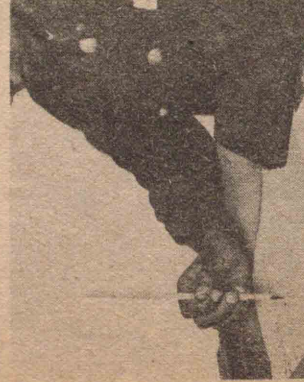
懸腕



提腕



枕腕



硬筆の持ち方



藤原行成書 消息

漸進之自主者
能而公私有維也
定面之圓儀亦
其舞怒相次期

加の揚末の是已好
之の揚末の是已好
之の揚末の是已好
之の揚末の是已好

阪正臣書

Handwritten calligraphy in cursive style, consisting of two lines of text on a rectangular slip of paper.

大口綱二書

Handwritten calligraphy in cursive style, consisting of two lines of text on a rectangular slip of paper. The characters are '河内' and '冬月'.

小野鶯堂書

Handwritten calligraphy in cursive style, consisting of two lines of text on a rectangular slip of paper. The characters are '雪中' and '松'.

賀茂真淵書

賀茂真淵書
真淵

加藤千蔭書

加藤千蔭書
千蔭

村田春海書

村田春海書
春海

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a short message, written on a rectangular piece of paper pasted onto the right page of the notebook. The text is arranged in several lines and is difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a short message, written on a rectangular piece of paper pasted onto the right page of the notebook. The text is arranged in several lines and is difficult to decipher due to its cursive nature.

賴山陽書

吾皇若養我漢來之氣

己卯五月仲夏于備後府書

賴山陽書

解聲 前：夜過河曉看
千岳擁大牙遠北十年磨一
劍派星光底底長蛇

室中島冠圖 山陽亦書

九月十七日羲之報王用
孔侍中作書志必至不
之領軍亦復何
厚惡不能以中忘
故每至取消息義
敬

上 法 出 古 畫
米 達 速 家 美
林 情 之 名 孤
華 風 更 庭 留

誠者天
之道也

言忠信
行篤敬

戒訓錄

松 檜 石

花 鳥 草

世田波

白家部

音教地志

高麗通政

物不然而求

求自得

海陸交通舟車鐵路

都會家庭身體衣服

紙始研究學術名家

招得和說引何取捨

有血七殺高堂壯健

其子依賴沙汰業內

嘉暖秋冷尺舞至急

親展平信侍使忠披

浦和市仲所三丁目

五十九番地

松田 友先生

侍使



封

東京都中野区大和町

百五番地

高梨 敏雄

月 日

有無承へ候に先生よりは過日
来御不快に相之候に趣昨
令此也容能如何に之を也一同
以案し申上げ候に氣候不順の
折から此養生の上にも速く以全快
遊ばせりやう御祈り申上げ候
先此也此を詳々に候旨

行得淡語直照去映發學

字業利何張隨神被怕性

路殊孤運建疎證言吟祭

紫似以高字尊家象年在

安安耳成而自高字出

於之五十年之久

忠を致し命を捨つる

人臣乃道を行はざらん

其身は高名を拂ふ

べしにあらん

天開萬國秋

風光日一新

死生を貫くもの行崇高

有る献身奉公乃精神行

生死を超越し一意任務行

完遂に邁進すべし

①
The first
of the series

The second
series

吾れ此世の暇に在りて

心常に思ふは世に在りて

心常に在りて世に在りて

心常に在りて

五月二十一日 金曜日 晴

今日は朝からよいお天気であった。学校で二年生の身体検査があった。一年の時よりも身長が七センチ以上伸び、体重もかなりよえてゐた。歸つて家で復習をしてゐると、山本聯合艦隊司令長官の壮烈な戦死がラジオによつて傳へられた。驚きの餘り茫然とする。「海ゆかば」の曲が響いて来ると思はず涙が出て撃ちてしまふの憤りが湧く。九時半就寝。

書道 二 男子用 備考

(一) 行成花押謹言。自去春……

鎮而公私有難拋……

逗留之間。俄奉……

節舞姫。相次期明……

(藤原行成書 消息)

(二) かぜをいたみおきつしらなみた

かゝらしつりするあまのそでか

へる見ゆ (傳小野道風書 秋萩帖)

(三) みかどをがむひとのよそひもは

なとととしたちわたるさくら

だのはし 正臣 (阪正臣書)

海邊冬月 うなばらはしほけ

ぶりてあらいそのなみのみしる

しふゆのよのつき 周魚

(天口鯛二書)

雪中松 いろかへぬためしにな

れて鉢うるのまつをもゆきにま

かせけるかな 鶯堂 (小野鶯堂書)

(四) はるのはて さくらだにまた散

のこる此春をいくかもなしと誰

かいふらむ 真淵 (賀茂真淵書)

山ざとに狩するひときたれり

夕しぐれふる山ざとに立をよる

いま一よりとおもひしものを

千蔭 (加藤千蔭書)

閑中鶯 世の人はすさみおほか

る春なればわれとかたらへ軒の

うぐひす 春海 (村田春海書)

(五) われみてもひきしくなりぬすみ

よしのきしのひめまついくよへ
ぬらん

すみよしのきしのひめまつひと
ならばいくよかへしとふべき
ものを

(傳藤原行成書 曼殊院藏古今和歌集)

(六) 吾善養我浩然之氣 己丑春仲書

于備後古府 襄 (頼山陽書)

鞭聲肅々夜過河 曉看千兵擁大

牙 遺恨十年磨一劍 流星光底

逸長蛇 題河中島鬪圖 山陽外

史 (頼山陽書)

(七) 九月十七日羲之報 且因孔侍中

信 書想必至 不云領軍疾復

問

憂懸不能須臾忘心 故旨遣取消

息 羲之報

(王羲之書 九月十七日帖)

(八) 今 器 出 才 畫 遣

達 速 奔 美 林 情

意 道 孫 華 風 處

庭 當 (草書の結體と用筆)

(九) 誠者天之道也 (中庸)

(十) 言忠信 行篤敬 (論語)

(十一) 防空 警戒 訓練

(十二) 松聲落 花影重

(十三) 深思 果斷 實行

(十四) 道德 教育 政治 經濟

(十五) 泰然不動 從容自若

(十六) 海陸 交通 舟車 鐵路

都會 家庭 身體 衣服

終始 研究 學術 精義

獨得 解説 引例 取捨

(七) 拜啓 今般 高堂 壯健

無事 依頼 沙汰 案内

春暖 秋冷 見舞 至急

親展 平信 侍史 直披

(六) 浦和市……(封筒のしたゝめ方)

(五) 拜啓承り候へば……(書翰)

(三) 信 得 淡 語 惠 照 吉

賀 弊 學 營 業 利 謝

張 隨 神 被 將 性 終

殊 孫 運 建 疎 躡 尊

駕 察 柴 欣 須 萬 草

筆 我 義 年 手 安 毎

來 成 而 雨 高 亭 書

出

(二) わよそ王土にはらまれて忠を致

し命を捨つるは人臣の道なり

必ずこれを身の高名とおもふべ

きにあらず (神皇正統記)

(三) 天開萬國歡

風光日々新

(五) 死生を貫ぬくものは崇高なる獻

身奉公の精神なり 生死を超越

し一意任務の完遂に邁進すべし

(戰陣訓)

(十四) あをによしならのみやこはさく

はなのにはふがごとくいまさか

りなり (小野老)

(十五) 春の彌生の曙によもの山邊を見

渡せば花ざかりかも白雲のかゝ

らぬ峯こそなかりけれ (慈鎮)

(十六) 五月二十一日……(日記)

(略名) 中教書道男 2

昭和十九年一月十六日印刷
昭和十九年一月二十日發行

書道二 (中等學校用)

定價三十八錢

著作權
所有

東京部神田區岩本町三番地
著作兼
發行者 中等學校教科書株式會社

代表者 山本慶治

東京部芝區田村町六丁目一番地
印刷者 秀美堂印刷株式會社

代表者 松島德三郎

東京部神田區深路町二丁目九番地
配給元 日本出版配給株式會社

發行所

東京部神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社

日本出版委員會登記二七五三

